▌評価結果▐

（仮称）芝浦一丁目計画

CASBEE®-建築(新築)

使用評価ソフト　：CASBEE-BD_NC_2016 (v3.0)
認 証 番 号　：CBL-CAS建築-0018-21
交　付　日　：2021年11月30日

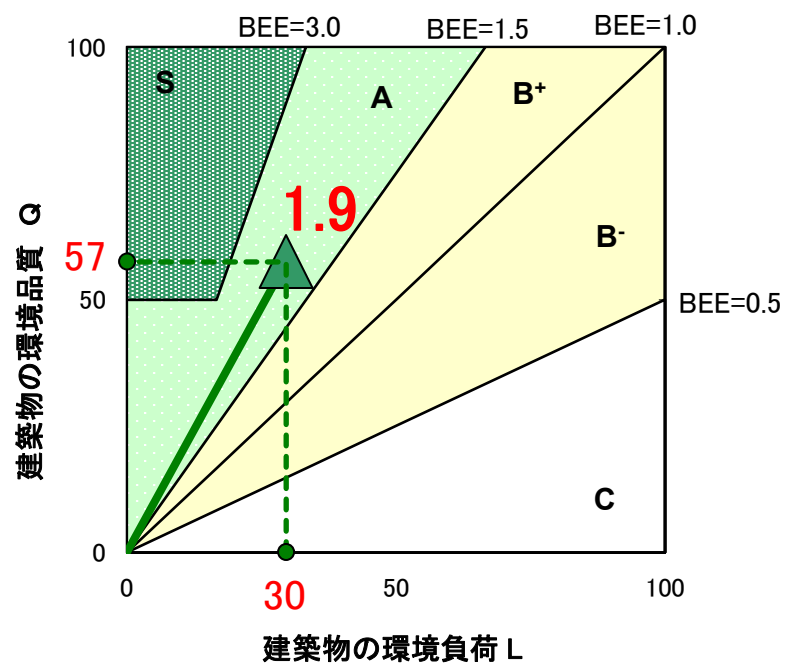
一般財団法人ベターリビング

建物用途	集合住宅	敷地面積	1,829.44㎡
建設地	東京都港区	建築面積	867.53㎡
気候区分	６地域	延べ面積	9,545.12㎡
地域・地区	商業地域、防火区域	階数	地上14F
竣工日	2023年2月	構造	RC造

建築物の環境効率（BEE：Built Environment Efficiency）

★★★★☆

S: ★★★★★　A: ★★★★　B+: ★★★　B-: ★★　C: ★

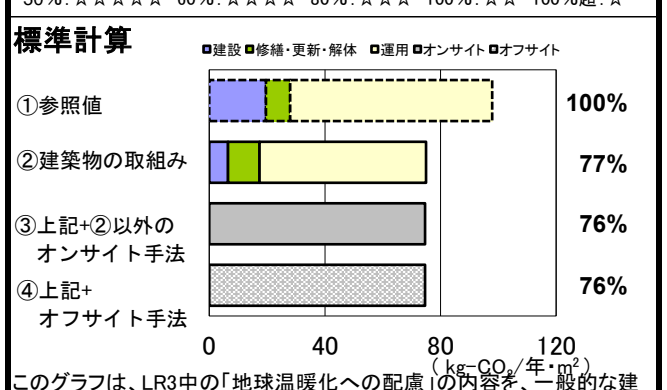


$$BEE = \frac{建築物の環境品質Q}{建築物の環境負荷L} = \frac{25\times(SQ-1)}{25\times(5-SLR)} = \frac{57.5}{29.6} = 1.9$$

ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

☆☆☆

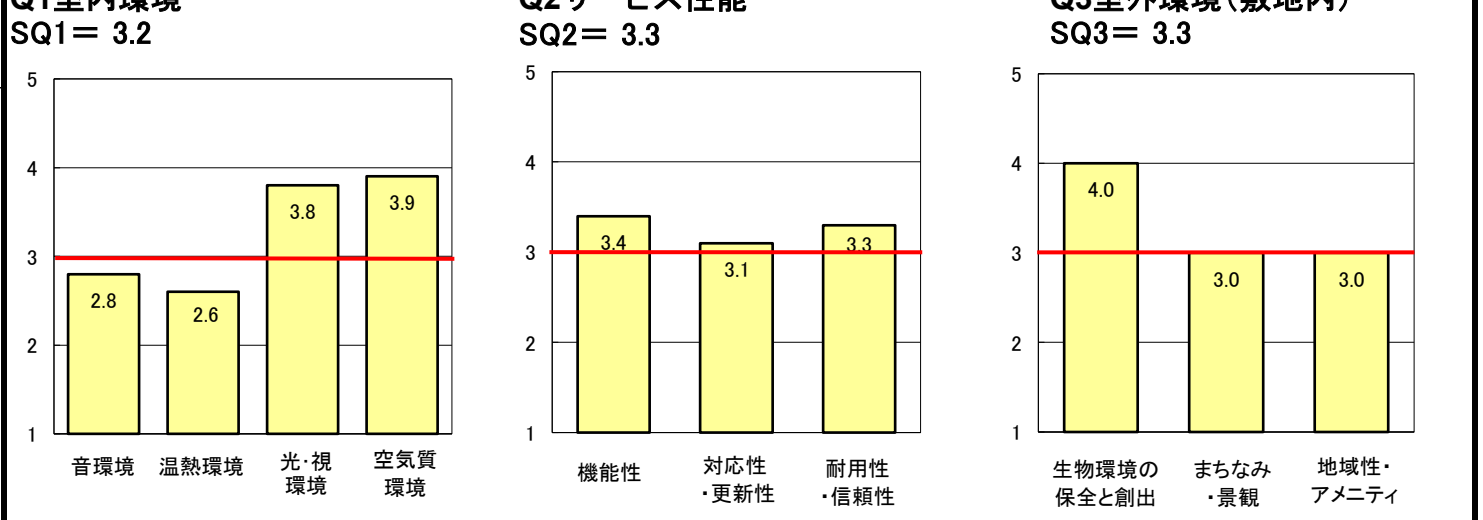
30%:☆☆☆☆☆　60%:☆☆☆☆　80%:☆☆☆　100%:☆☆　100%超:☆



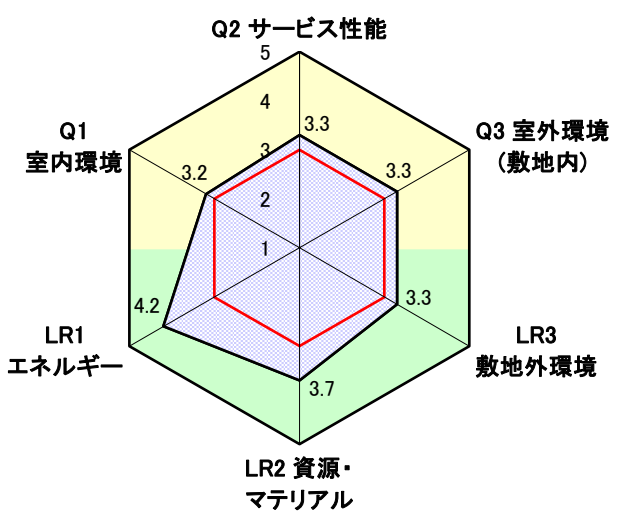
このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです

中項目の評価（バーチャート）

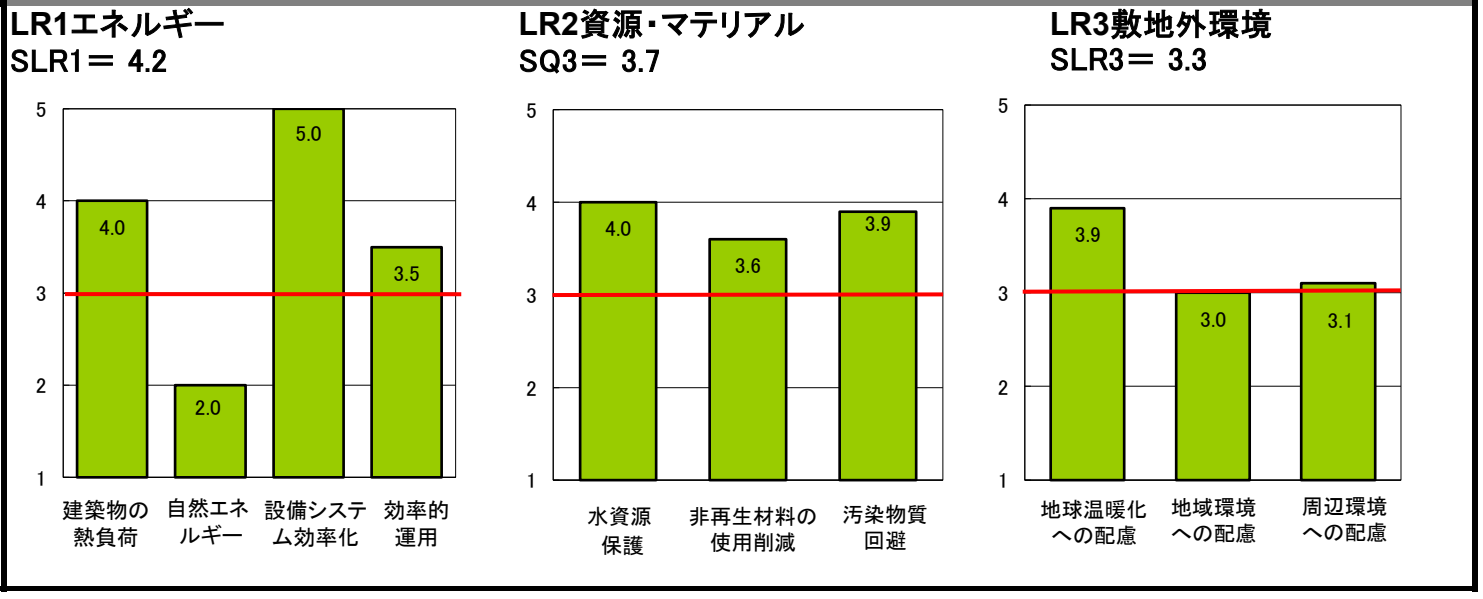
Q 建築物の環境品質（建築物の居住環境のアメニティを向上させる性能評価）　SQ = 3.2



大項目の評価（レーダーチャート）



LR 建築物の環境負荷低減性（建築物の環境負荷を低減させる性能評価）　SLR = 3.8



無断転載禁止

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)芝浦一丁目計画

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
欄に数値またはコメントを記入　■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート　実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						3.2
Q1 室内環境			0.40		-	3.2
1 音環境		2.5	0.15	3.0	1.00	2.8
1.1 室内騒音レベル	<共用>目標値を設定	4.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音		1.0	0.50	3.0	0.50	
1 開口部遮音性能		1.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能	<住居>予測式によりDrを算定	-	-	3.2	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音		-	-	-	-	
2 温熱環境		2.0	0.35	2.7	1.00	2.6
2.1 室温制御		3.1	0.50	3.3	0.50	
1 室温		3.0	0.63	3.0	0.63	
2 外皮性能	<共用>性能の高い断熱材を使用　<住居>等級4	3.4	0.38	4.0	0.38	
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-	
2.2 湿度制御	<住居>除湿機能があり、熱橋部に断熱補強を実施	1.0	0.20	4.0	0.20	
2.3 空調方式		1.0	0.30	1.0	0.30	
3 光・視環境		3.3	0.25	4.0	1.00	3.8
3.1 昼光利用		3.5	0.30	4.0	0.50	
1 昼光率	<共用><住居>昼光を積極的に取り込むため、開口部を大きく計画	3.8	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口		-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		2.0	0.30	4.0	0.50	
1 昼光制御	<住居>カーテンと庇を採用	2.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度		3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御	<共用>エリア毎に細かく照明制御が可能	5.0	0.25	-	-	
4 空気質環境		3.8	0.25	3.9	1.00	3.9
4.1 発生源対策		4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質	<共用><住居>全面的にF☆☆☆☆の建材を採用	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気		3.5	0.40	3.9	0.38	
1 換気量	<共用><住居>建築基準法の基準を上回る換気量を確保	4.1	0.50	3.7	0.33	
2 自然換気性能	<住居>居室面積の1/6以上の開口面積を確保	-	-	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理		-	-	-	-	
1 CO_2の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		-	-	-	-	
Q2 サービス性能		–	0.30	-	-	3.3
1 機能性		3.4	0.40	3.4	1.00	3.4
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性		-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応	<住居>1Gbitクラスのインターネット回線を整備	-	-	5.0	1.00	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		4.0	0.30	1.0	0.40	
1 広さ感・景観		-	-	1.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画	<共用>コンセプトに基づく内装計画の実施	4.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理		3.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	防汚性に配慮した材料の採用、外部金属部分の防錆対策等の実施	4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.1	0.30	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.5	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	劣化等級3	5.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	フローリング等の耐用年数の長い内装材を採用	4.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	2種類以上にB以上を採用し、Eは不採用	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		3.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法	重要機器の耐震クラス：Aクラス	4.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性		3.2	0.30	3.4	1.00	3.3
3.1 空間のゆとり		-	-	3.8	0.50	
1 階高のゆとり	基準階階高:3.0m以上	-	-	5.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ		-	-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり		-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性		3.2	1.00	-	-	
1 空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性	仕上材を痛めず、更新・修繕が可能	5.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)		–	0.30	-	-	3.3
1 生物環境の保全と創出	自生種の採用や植物銘板の設置等により生物環境を積極的に創出	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮		3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-		-	3.8
LR1 エネルギー		–	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制	等級4	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用		2.0	0.10	-	-	2.0
3 設備システムの高効率化	[BEI][BEIm] = 0.76	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用		3.5	0.20	-	-	3.5
集合住宅以外の評価		-	-	-	-	
4.1 モニタリング		-	-	-	-	
4.2 運用管理体制		-	-	-	-	
集合住宅の評価		3.5	1.00	-	-	
4.1 モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	取扱説明書等を整備	4.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル		–	0.30	-	-	3.7
1 水資源保護		4.0	0.20	-	-	4.0
1.1 節水	節水器具を採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		4.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	雨水を屋外潅水に再利用	4.0	1.00	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		3.6	0.60	-	-	3.6
2.1 材料使用量の削減		3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	ー	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	床:塩ビシート、床:タイルカーペット、天井:岩綿吸音板	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と内装材は容易に分離可能	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.9	0.20	-	-	3.9
3.1 有害物質を含まない材料の使用	有害物質を含まない材料を4種類採用	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		3.5	0.70	-	-	
1 消火剤		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	ODP=0かつGWP＜50の断熱材を採用	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境		–	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮	LCCO2排出率＝76%	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	十分な駐輪・駐車台数を確保	4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮		3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1 騒音		3.0	1.00	-	-	
2 振動		-	-	-	-	
3 悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制		3.0	-	-		
3 日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制		3.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	周辺環境へ配慮した適切な照明配置	4.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	